

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について（警報）

令和7年（2025年）9月18日（木）15時00分

北海道江別保健所
（北海道石狩振興局保健環境部保健行政室）
電話：011-383-2111

道では「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和7年（2025年）第37週（令和7年9月8日～令和7年9月14日）において、江別保健所管内の定点医療機関1カ所あたりのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数は、国立感染症研究所の設定する警報の基準である8人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、江別保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

細菌の一種であるA群溶血性レンサ球菌がのどに感染しておこる感染症で、接触感染や飛沫感染を起こします。のどの腫れ、痛み、発熱、首のリンパ節の腫れなどの症状のほか、発疹を伴う「猩紅熱」を引き起こしたり、数週間後になって心臓弁膜症の原因となる「リウマチ熱」や腎臓をおかす「溶連菌感染後急性糸球体腎炎」などを引き起こすことがあります。

適切な抗菌薬を一定期間使用することは、特にリウマチ熱の予防に有効であるとされています。

年齢別にみると、5歳～15歳が最も多く、幼稚園や保育所、学校などの集団生活の場での感染が多くみられます。

春～夏にかけての感染もみられますが、流行のピークは冬です。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防

患者との濃厚接触を避けることが最も重要とされていますが、実際には困難な場合が多いと思われます。保育施設など集団生活の場では、熱やのどの痛みがある児との接触を避ける、そのような症状があれば可能な限り休ませるなどの対策が必要です。手洗いやうがいの徹底も重要です。おもちゃなどの口に入る器具や食器にも注意が必要です。

なお、健康保菌者からの感染はまれとされています。

3 その他

(1) 最近5週における定点医療機関からのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告状況

（カッコ内は1カ所あたりの患者数 単位：人）

	第33週 (8/11～8/17)	第34週 (8/18～8/24)	第35週 (8/25～8/31)	第36週 (9/1～9/7)	第37週 (9/8～9/14)
江別保健所	8 (4.00)	13 (3.25)	24 (6.00)	30 (7.50)	39 (9.75)
全道	127 (1.46)	181 (1.81)	206 (2.04)	234 (2.29)	—
全国	2,097 (0.97)	3,098 (1.34)	3,695 (1.58)	—	—

※第37週の患者報告数は速報値。第36週までは、北海道感染症情報センター公表のデータによる。

(URL : <https://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)

(2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診したA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者数が、国立感染症研究所において設定した警報レベルの基準値に達したときに発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報レベル>

	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数（人）	8	4

※ 警報は定点あたりの患者報告数が終息基準値未満となった場合、注意報は定点あたりの患者報告数が基準値未満となった場合に自動的に解除されます。